



輝け！北っ子！

ちょっといい話 1 ～+αの広がり 「助っ人」増加～

学校だよりのNo.89で「北小の朝を元気にし隊」の4年生の「助っ人」のことをお話ししましたが、助っ人の活動が更なる助っ人の誕生につながりました。

20日朝、いつものように校門前で子ども達をあいさつしながら迎えていると、「助っ人」のとなりであいさつ運動をしている子を見つけました。話を聞いてみると「助っ人です。一緒にやってみようかと・・・」まさに+α。一人の+αが次の+αにつながった瞬間でした。6年生とはちょっと離れた位置ではありましたが、大きな声で登校してくる子ども達を迎えてくれていました。とても、とても嬉しかったです。「ありがとうね。よろしくね。」と声を掛け、普段通りまた子ども達を迎えていました。



しばらくするとさらにその横にまた新たな助っ人の姿が・・・。子ども達にとってはあまり深い意味はなく、遊び半分かもしれませんが、その行動には大きな意味があります。その子にとって一歩踏み出した+αの行動であることはもちろん、全校的にはあいさつの定着、さらには「+αの広がり」というとてつもなく大きな意味をもたらしてくれたのでした。

助っ人の4年生と話をしていると「○○君が助っ人1号で△△君が助っ人2号かな。そして・・・」等と話しており、20日はなんと助っ人が「6号」まで現れました。(写真は21日の朝のもので、「7号」まで登場してくれました。)寒い朝でしたが、心がホッコリしてきました。ありがとう助っ人たち。

ちょっといい話 2 ～感謝の「気持ち」を感謝の「言葉」で～

今日は「ちょっといい話」の2連発です。

校門での子ども達の出迎えに続いて、養護教諭とともに校庭の遊具の消毒に向かうのがコロナ禍での毎朝のルーティン活動になっています。(消毒ボランティアの方も朝から来ていただき本当にありがとうございます。)20日も遊具の消毒の終え、校舎に戻ってくると一人の5年生の男の子が私に声を掛けてくれました。

「校長先生、消毒ありがとうございます。」

こんなにうれしい一言はありませんでした。そして、「はっ」としました。教師としての仕事といえば仕事かも知れませんが、感謝してくれる人がいると実感できたことで、「ちょっと面倒だな」「寒いな」といったマイナスの感情が「がんばろう」というプラスの感情に一瞬にして変わっていたのでした。そして自分の行動を振り返ってみました。いろいろな行為に対して、感謝の気持ちが湧き起こってはきますが、その感謝の気持ちを「言葉」として伝えていたのだろうか。答えは・・・。ちょっとした一言で気持ちがしっかり伝わり、こんなにも相手がうれしい気持ちになるのに・・・。皆さんはどうでしょうか。気持ちを「言葉」にしていますか。大げさかも知れませんが、5年生の優しい一言が人生で大事なことを教えてくれたような気がしました。ありがとう。



保護者の皆様からの声をお待ちしています。

～学校に対するご意見・ご感想等お気軽にお寄せください(または assist.nihonmatsukita-e@fcs.ed.jp まで)～

..... 切 り 取 り 線